

「熊本地震からの復旧・復興について」・「国道の維持・管理について」

- 1 日程 : 平成30年6月6日(水) 13:30~16:00
- 2 場所 : 熊工会館 2階
- 3 主催 : 国土交通省熊本国道事務所 調査第二課長 元水 昭太 様
- 4 参加 : 対象:土木科3年生、2年生 75名
- 5 学習内容



今回のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクールでは、3コースに分けて熊本地震を検証し、必要な知識・技術を知り、それを体験的に身に付ける取り組みをする。

3つのコースの一つである防災マネジメントコースは、主に土木系の公務員が震災や台風・豪雨などの際、必要な緊急対応の手段、方法を身に付けることを目標としている。そこで、今回、熊本地震の際、復旧の陣頭指揮を執った国土交通省の職員の皆さんに来ていただき、発災時の初動からの対応について講話を行っていただいた。

はじめに、熊本河川国道事務所調査第二課長の元水様から、熊本河川国道事務所の組織と役割について、次に熊本地震についての災害支援記録についての説明を受けた。熊本地震では、国道57号線の立野地区の崩落箇所での無人化バックホウを用いた復旧作業をテックフォース4名、宮崎河川国道事務所から2名および地元の協力業者と協力しながら、余震が続く中での復旧作業をされた経験を話された。特に、印象に残った点は、作業をしている人たちの安全を確保しながら、地震という自然災害に立ち向かって、道路の復旧に取り組んだ土木の公務員としての使命感の強さと責任の重さを感じることができた。2・3年生の公務員希望者にも、仕事の大変さとともにやり甲斐の大きさを感じることができた講話であった。また、道路の維持・管理について、阿蘇工事事務所・八代工事事務所から2名参加していただき、高速道路の崩落現場の復旧、トンネルでの交通事故による全面通行止め、阿蘇では、冬場の凍結から道路の安全を守るための苦労など、地域の特性に応じて、雨や雪、台風などの自然災害から国道を安全に通行できるようにするための様々な仕事内容など、国土交通省の職員の方々から直接お聞きすることができ、とても勉強となったと思う。

生徒たちからも、震災時の緊急対応の具体的な話やテックフォースの活動内容について、質問が出た。また、今回来校した職員の方の一人が本校出身者で、是非後輩を待っているという期待のお言葉をいただくことができた。

